

【3-2】日常生活支え合い実践事業

中河保育所地域ふれあい事業 (鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市中河地区
実施主体 鯖江市中河保育所
所在地 鯖江市中野町208-1
代表者 所長 福田佐知代



平成23年度の事業概要

市内の中河地区にある児童福祉施設「中河保育所」は、近隣地区からの利用も多くなってきている。備品を配備することで、園児の祖父母にかかわらず広く地域の高齢者が、定期的に園児と交流できる場をつくる。

- ・ 大型テレビを設置し、多数の参加者が園児と一緒に触れ合えるようにする。
- ・ 大型絵本を購入し、多数の参加者が園児と一緒に楽しめる場をつくる。
- ・ CDデッキを購入し、多数の参加者が園児と一緒にリズムに合わせて体を動かし健康な体作りが行えるようにする。

現在の活動状況

平成25年度の年間実施計画を立て、保護者および地域の高齢者に対して、ふれあい事業を実施中

<概要>

「絵本とのふれあい」 毎月1回 午前9時から10時30分まで
4、5歳児の部屋でそれぞれ、ふれあいの時間を楽しむ。

「祖父母ふれあい遊び」年3回

大型絵本、リズム遊び、伝承遊び、わらべ歌遊びをとおしてふれ合って遊ぶ。

焼き芋会、餅つき会、ぜんざい会のイベントも同時に行い園児と一緒に楽しむ。

「交通教室」年3回 市交通指導員により園児と一緒に交通の指導を受ける。

<維持管理>

もち米等は地域住民からの寄付、その他の材料は、市予算にて購入する。

世話係は、地域住民、祖父母が積極的に行う。

<利用状況>

「絵本とのふれあい」1回2~3人程度 「交通教室」2回目に5人

「祖父母ふれあい遊び」1、2回目共80人程度 3回目30人程度 利用者は、65歳以上の男女

事業の実績、成果

「絵本とのふれあい」は、継続する事業となり定着してきている。地域のボランティアの絵本の読み聞かせや話を通じて、お年寄りからの知恵を園児がもらい、園児の元気が高齢者に届くといったよいふれあいが広がっている。

「交通教室」は、2回目の実地訓練において祖父母・地域高齢者・園児の学びの場となってきた。「祖父母ふれあい遊び」は、毎回、参加者が多く、どんどん交流の輪が広がっている。

工夫した点

恒例で行い、負担をかけない自然な交流ができる場とした。

イベントは、昔懐かしいものを企画し、参加者が楽しく過ごせるようにしている。

高齢者から伝承してもらうことで、高齢者の生きがいの場となるとともに園児の遊びが広がるようにしている。



事業の財源

H23年度『地域支えあい体制づくり事業』の補助金で、大型テレビ、大型絵本、CDデッキ等の備品を購入。

高齢者との交流会の運営に必要な賄材料費および保育材料は、市の一般財源にて対応している。

課題

地域の一人暮らしの高齢者への呼びかけが届かず、利用がほとんどない。子育て支援としての園開放は、毎日行っているが、地域高齢者においては、自然なふれあいの場づくりになっていない。

今後の目標

子育て家庭と高齢者が、園開放において自然な形でふれあいながら、生き生きと過ごせる場にしていきたい。

今後、保育所の取り組みを地域に発信していき、地域の人々と園児がふれあうことで、活力のある地域づくりにつなげていきたい。

団体からのメッセージ



赤ちゃんから小学校就学前の子ども達が楽しく過ごしています。

元気いっぱい子ども達と職員の笑顔に出会えます。
中河保育所の園開放は、平日の10時から11時です。
毎月、鯖江市のホームページにおいて「ふれあい事業」の開催をお知らせしていますのでご覧ください。

問合せ先： 鯖江市中河保育所

(TEL : 0778-51-3103 FAX : 0778-51-3982)